

2014年度地域連携生涯学習部門事業の実施報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009488

事業報告

2014年度地域連携生涯学習部門事業の実施報告

1 公開講座

■イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）

講座名	開催日	テーマ	講師	対象	受講料	会場	各日	実数
食と健康を科学するⅡ	9/13	食物繊維の多様な機能	農学研究科教授・森田達也	一般市民	無料	沼津市民文化センター	50	95
	9/20	キノコが農業を変える?～フェアリーリング(妖精の輪)を作るキノコから得られた物質で作物増産～	グリーン科学技術研究所／農学研究科教授・河岸洋和					
	9/27	機能性食品を考える～カテキン、カフェイン、ビフィズス菌～	農学研究科准教授・茶山和敏					

■人文社会科学部

講座名	開催日	テーマ	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
児童・青年の社会的包摂を考える	10/17	児童期・青年期をめぐる諸困難と社会的包摂:総体的な構図と課題	人文社会科学部研究科教授・荻野達史	一般市民、教育関係者、福祉・心理臨床スタッフ、行政職員など	1,600	静岡市産学交流センター(B-nest)	45	152
	10/20	子どもの福祉と女性の福祉:社会的養護と特別養子縁組から考える	人文社会科学部研究科准教授・白井千晶					
	10/27	不登校の理解と支援:学校・社会との接続	人文社会科学部研究科教授・江口昌克					
	11/4	ひきこもりにおける子ども・若者の社会参加支援:居場所、就学、就労	NPO法人サンフォレスト代表・三森重則					
	11/10	若年者の就業とライフコース	人文社会科学部研究科准教授・吉田 崇					
	11/17	シンポジウム「児童・青年への総合的支援システムの構築に向けて」	荻野達史、江口昌克、三森重則、静岡市職員					

■教育学部

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル(初級編)	5/10	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表・小泉成行	登山・アウトドア活動を行う一般市民	3,000	静岡大学静岡キャンパス及び屋外	25	25
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル(中級編)	9/15	教育学部教授・村越 真 ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子	過去に初級編を受講した方、又は地形図の基礎知識がある登山経験者で6km程度を歩ける方	4,000	静岡市郊外(屋外)	18	18
トレイルランナーのためのランニングとナビゲーションスキル	11/15・16	プロトレイルランナー・山田高志 教育学部教授・村越 真	ロードで5km以上を連続して6分/kmで走れる方	8,000	静岡県立朝霧野外活動センター	20	17

■農学部

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
施設栽培・環境制御技術講習会	4/16、 5/7、 6/4・ 25、 7/16	農学研究科准教授・切岩祥和 (株)ヒノン農業取締役社長・影山雅也 静岡県農業技術研究所野菜科科长・ 大石直記 ダブルエム研究所所長・狩野 敦 農学研究科教授・糠谷 明 (株)アームズ取締役・三倉直巳	一般市民	3,600	静岡大学静岡 キャンパス	15	75
米粉を食べよう！～イネの調製・ 製粉教室～	11/1	農学研究科助教・浅井辰夫 農学部特任助教・飛奈宏幸 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	小学生以上	600	静岡大学農学 部附属地域フ ィールド科学教 育研究センター 藤枝フィールド	20	9

■情報学部

講座名	開催日	テーマ	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
情報学アラカルト講 座2014	11/8	電子マネーの居場所	情報学研究科教授・八柳良次郎	一般市民	無料	静岡大学 浜松キャン パス	各50	60
		情報の値段・ネットワークの価値	情報学研究科准教授・高口鉄平					
		画像情報処理の初歩	情報学研究科教授・中谷広正					

■技術部

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
私のミカン～ミカンの通年管理教 室～	5/13、 7/15、 9/16、 11/25、 3/3	技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術専門員・増田幸直 農学研究科准教授・八幡昌紀 技術部技術職員・周藤美希 農学研究科教授・稲垣栄洋	一般市民	10,000	静岡大学農学 部附属地域フ ィールド科学教 育研究センター 藤枝フィールド	10	50

■グリーン科学技術研究所

講座名	開催日	テーマ	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
体験！大学の科学実 験	8/9	水中のカルシウムとマグネシウ ムの分析実験	グリーン科学技術研究所教授・ 近藤 満	中学生以上	無料	静岡大学 静岡キャン パス	30	43
	8/10	ルミノールの合成と発光実験						
	8/23	ルミノールの合成と発光実験						
遺伝子の世界を見 てみよう	8/27	爪や髪の毛からDNAを抽出 する	グリーン科学技術研究所准教 授・道羅英夫	県内高校生	無料	静岡大学 静岡キャン パス	20	34
	8/28	光る大腸菌を観察する						

■キャンパスミュージアム

講座名	開催日	テーマ	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
静大キャンパス探訪 ～静岡キャンパスの 自然と歴史～	10/4	今も動いている静大キャンパ スの基盤	静岡大学名誉教授・和田秀樹	一般市民、学 生、小中高生 (中学生以 下は保護者同 伴)	無料	静岡大学 静岡キャン パス	20	53
	10/11	大学構内の植物探訪	理学研究科准教授・徳岡 徹					
	10/18	静大キャンパスの動物	教育学部講師・加藤英明					
	10/25	静大キャンパスの歴史～縄文 から静大まで～	人文社会科学部研究科教授・篠 原和大					

2 静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

■静岡大学・読売新聞連続市民講座「静岡学事始め—静岡の文化・風土の成り立ちを考える—」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	7/5	駿府大御所10年～平和時代の礎を築く～	久能山東照宮博物館館長・落合偉洲	172
2	8/2	静岡県における過去数千年間の地震・津波の履歴	理学研究科教授・北村晃寿	188
3	9/6	家康のグランドデザインと静岡	静岡大学名誉教授・小和田哲男	205

回	開催日	タイトル	講師	参加者
4	10/11	幕末維新と静岡の民衆	人文社会科学部准教授・今村直樹	161
5	11/1	世界文化遺産を育んだ富士山の自然～三保の松原から青木ヶ原樹海まで～	理学部特任教授・増澤武弘	141

- ・会場：あざれあ（静岡県男女共同参画センター）6階大ホール
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学、読売新聞東京本社静岡支局

■静岡大学・中日新聞連携講座「浜松発！未来の社会」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/18	電子技術でつくる新しい目～新機能イメージセンサの開発と応用～	電子工学研究所教授・川人祥二	48
2	11/8	地球への帰還～大気圏突入環境を模擬できるレーザープラズマ風洞の開発～	工学研究科准教授・松井 信	48
3	12/13	花も進化する～花は分子によって環境に適応している～	創造科学技術大学院教授・渡辺修治	48
4	1/10	新たな学び方～知識創造型教育への転換～	情報学研究科教授・大島 純	62
5	2/14	光でがんを勝つ～低侵襲がん光治療～	工学研究科准教授・平川和貴	96

- ・会場：静岡大学浜松キャンパス
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学、中日新聞東海本社

■静岡大学・ユーコープ連携講座「食と健康を科学するⅡ」

タイトル	講師	沼津会場		静岡会場		浜松会場	
		開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
食物繊維の多様な機能	農学研究科教授・森田達也	9/13	34				
キノコが農業を変える？～フェアリーリング（妖精の輪）を作るキノコから得られた物質で作物増産～	グリーン科学技術研究所教授・河岸洋和	9/20	30	2/10	28		
機能性食品を考える～カテキン、カフェイン、ビフィズス菌～	農学研究科准教授・茶山和敏	9/27	31	2/3	34	2/14	27
食品化学の世界 なぜ体によいか	静岡大学名誉教授・衛藤英男			2/4	16		

- ・会場：[沼津会場] 沼津市民文化センター [浜松会場] 静岡大学浜松キャンパス
[静岡会場] 静岡市北部生涯学習センター美和分館（2/3・10）、静岡市葵生涯学習センター（2/4）
- ・参加費：無料
- ・主催：静岡大学、生活協同組合ユーコープ

3 地域連携応援プロジェクト

静岡大学の学生・教職員を対象に「地域連携応援プロジェクト」を募集し、16件の応募があった。そのうち13件のプロジェクトを採択した（下表）。これらの取り組みが進むことにより、学生・教職員の主体的な地域連携活動が促進され、地域とより密着に連携した静岡大学になることを期待する。

部局	代表者	プロジェクト名
教育学部	井出 智博	児童養護施設における学習支援の取り組み
教育学部	大塚 玲	きんもくせい土曜教室（大学と保護者と親の会の連携による発達障害児への学習支援活動）
教育学部	河村 道彦	敷地でまなび、世界をつなぐ「しきじ土曜倶楽部」支援プロジェクト
教育学部	川原崎 知洋	静岡県内の公共機関と協働する子どもたちのための造形プログラムの開発運営事業
教育学部	北山 敦康	地域の小・中学校と連携した日本伝統音楽普及のためのアウトリーチ活動

教育学部	塩田 真吾	焼津市のNPOと連携した「静岡版保護者向け情報モラルワークショップ」の開発・実践と普及
教育学部	志民 一成	遊びや体験活動を通して学びに熱中する子ども育成の場「ちびっこ寺小屋プロジェクト」
教職大学院	渋谷 かさね	地域をつくる社会教育事業への参加プロジェクト～シニアの教育力に学ぶ、学生の発想に学ぶ～
教育学部	藤井 基貴	「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～」によるハイブリッド型カフェプログラムの開発および実践
教職大学院	矢崎 満夫	さあ、違いを認め合える私たちのまちへ。～支援でつながる多文化共生の輪～
理学研究科	徳岡 徹	旧湯ヶ島小学校を利用した天城山周辺における自然環境資源の有効活用
附属図書館	松下 昭重	本が好きな子、集まれ！キッズチャレンジ静大図書館
技術部	大橋 和義	身近なもので Science

4 地域課題解決支援プロジェクト

地域社会が抱える課題を大学が再発見し、大学のもつ様々な資源を活かしながら対応策をとともに考え、協働することにより課題解決を支援することを目的に、広く学外から地域課題を公募し、県内全域から27件の応募があった（下表）。そのうち、重点的に取り組む課題をモデル事業として3件選定した。現在、寄せられた27件の地域課題をウェブサイトにて一般公開中であり、学内では各研究室・学生とのマッチングを進めている。

No.	応募団体／関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
1	夢の里みつかわあぐり（袋井市）	課題は「三川が誇る3つの財産（農業・環境・人）をより合わせ、欲しい、行きたい、住みたい三川地区を創る」こと。人との絆を大切に、心通い温もりのあるまちづくりに取り組みたい。	①出会いの場を提供し、結婚する人を増やす方策 ②袋井市地域の活性化方策 ③地産地消推進のための方策
2	御前崎市役所	過去の人口増加を背景に、原子力関連交付金等により公共施設の整備を進めたが、少子高齢化や人口減少により公共施設のあり方が変化した。公共施設マネジメントへの取り組みが必要である。	①今後の当市の財政状況分析 ②公共施設マネジメントの可能性及び取組手法 ③公共施設の費用便益分析
3	ユークロニア株式会社（静岡市）	県内の小中学校では、睡眠不足からくる問題が顕在化している。「睡眠授業」の依頼が増えているが、研修にはマンパワーが不足。地域の課題として睡眠を整えることができる仕組み作りが必要である。	①睡眠教育の標準化や効果検証 ②教育者の育成 ③静岡独自の睡眠問題調査により、地域に合った生活スタイルを探る
4	NPO複合力（静岡市）	両河内地域の高齢化は進み、休耕農地が増えている。森林公園「やすらぎの森」は、老朽化にもかかわらず年間30万人が訪れる。脱・限界集落の手がかりを得て、地域を活性化する手立てを考えたい。	①農作物の品質を高め、商品化する栽培知識技術および竹林等を伐採し、循環型資源とする知識技術 ②グリーンツーリズムを活性化するための知識技術 ③大学生など若いマンパワーが恒常的に来園する方策
5	静岡市北部生涯学習センター美和分館	潜在的な利用者のニーズの把握が十分ではない。広く地域住民の生涯学習に対するニーズ把握のため調査を企画した。それにより、一層充実した学びの機会を地域に提供し、地域コミュニティ活動の推進につなげたい。	地域住民に対するアンケート調査への助言及び分析
6	静岡市立登呂博物館	リニューアルオープン後、年々来館者数が減少している。イメージキャラクターを使った誘客活動を行ってきたが、マンネリ状態になっている。また、多様化する来館者に対応するため、多言語仕様の資料が必要となる。	①イメージキャラクターを活用した教育普及事業の開催への支援 ②登呂遺跡及び登呂博物館の概要を紹介した多言語対応パンフレットの作成とHPの構築
7	NPO法人富士川っ子の会（富士市）	子育て支援中心の活動を、今後は生涯学習の観点から事業を広めていく必要がある。当NPO、行政、企業が協働できるようなテーマで解決を図る活動を展開するにあたって、活動拠点の確保、会員の若返り施策と後継者の育成が課題。	①当団体、行政、企業との協働により、団体の若返りと活動の幅を広げ、定款に示す事業展開の具体化 ②活動拠点の確保

8	油山川のマコモを根絶する会 (袋井市)	油山川では700 mにわたってマコモが繁殖し、流下能力を著しく低下させ、景観上からも問題となっている。河川管理者が年に1回刈り取りを行っているが、マコモは繁殖力が旺盛で、2ヵ月もすると元の状態にもどってしまう。	これまでの活動の中で、マコモは根が残っていると再生するが、完全に取り出せば再生しないこと、天地返しにより根が腐り取り出せることがわかった。マコモの生態研究、根絶手法の検証で研究支援を期待する。
9	袋井市三川自治会 連合会	高齢者が地域社会に飛び出せない、“生き甲斐や社会貢献”の機会が確保できない。	①高齢者の意識調査 ②高齢者のライフスタイルの解析 ③高齢者の社会進出の仕掛けづくり ④全国での成功(失敗)事例の紹介 ⑤街づくりワークショップ等への共同参加
10	南伊豆新生機構 (南伊豆町)	①未利用の土地の有効活用がされていない ②地場産業が稼働していないため人口が流出 ③人材が育たず外部の人材との交流がうまくできていない ④行政の協力体制がない	①知的アドバイスの支援 ②人材の支援 ③資金の支援
11	焼津市役所	高度成長期の急激な人口増を背景に公共施設の整備を進めてきたが、老朽化が進んでいる。効果的に公共施設をマネジメントしていく取組が求められている。	地域の人口推移の検証や施設の利用状況を詳細に分析し、老朽化を迎えている集会施設の複合化案について提案いただき、市民への説明、話し合いを経て、建設計画を実現可能レベルに調整
12	浮橋地域のスロー フードを考える会 (伊豆の国市)	中山間地の活性化	①大学生の視点から、中山間地を幅広い世代にアピールするための意見がほしい ②ワークショップを取り入れながら、地元の自然を最大限に利用し農業・観光へと循環させるプランを検討してほしい
13	株式会社アイ・クリ エイティブ/ジョ ブトレーニング事業 (静岡市)	①ニート(若年無業者)増加問題 ②静岡県耕作放棄地増加問題	[大学に望むこと] ニート・ひきこもりや発達障害などの教育心理の知恵を貸してほしい [ジョブトレーニングが提供できるもの] ゼミ等の一環として参加してもらうことで実態現場+学びの場を提供する
14	松崎町	町内に残されているなまこ壁を配した歴史的建造物が、所有者の高齢化や維持のコスト高等で取り壊されることが多い。町の財産ではあるが個人の所有物である歴史的建造物を、いかに後世に残していくべきか悩んでいる。	最小の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、古民家を利用したまちづくり手法と収益事業のアドバイスや、学生による町おこしや収益事業の模索など
15	松崎町	町民の森「牛原山」を利活用したいが、中途半端に行政主導で整備してきたため町民の利用が少ない。眺望はよく、晴れていれば展望台からは富士山も望める素晴らしい山だが利用されない。	人が集まる仕掛けや町民が自ら維持や修繕に携われる方法を一緒に考え、里山の素晴らしさを内外に発信し、愛され利用される森にしたい。アドバイスや学生の知力、体力、気力を町おこしに活かしたい
16	松崎町	松崎町では、ソフト・ハード両面からの防災施策が急務である。津波対策として水門の建設や防潮堤の嵩上げなど必要な事業だが、景観などの問題で全体の理解が得られない。	防災機能だけの無機質な防潮堤や水門を、どうしたら景観に配慮したデザインや機能を持たせることができるか、一緒に考えてほしい
17	松崎町	過疎化・少子高齢化により耕作放棄地が急増している。このままでは荒地だらけになり、加盟を認められた「日本で最も美しい村」連合に恥ずかしい姿をさらしかねない。	耕作放棄地の解消だけでなく、永続的に利活用し続けることができる仕掛けづくりを期待する。当町での有効な作物の選別や耕作方法の指導、学生による農業体験事業化などでの協力がほしい
18	松崎町商工会	中心市街地の商店街が過疎化・少子高齢化によりどんどん寂れていて、転居し空き地になるところが後を絶たない。空き店舗も多く、シャッター商店街になりつつある。	商店街の魅力発掘と、買い物弱者の高齢者に対する商店街への買い物支援法、商店街のアート誘致、コミュニティ公園化について助言がほしい。全体的なデザインについても関わってほしい
19	浜松都市環境フォー ラム(浜松市)	浜松市はマイカーに依存した都市であり、深刻な渋滞問題が予測され抜本的な交通対策が急務である。工業都市として発展してきた浜松が今後も持続的に発展していくには観光・文化都市としてのまちづくりが必要となる。	持続可能な都市づくりは、行政・民間が扱いにくい空白の分野で、大学のもつ知的・人的資源を活用して研究する価値が高く、実現を前提に「特区」の認定を受けられるような研究を期待したい
20	伊豆半島ジオパーク 推進協議会	伊豆半島ジオパークの進捗を判断する評価指標や調査方法の不足。貴重な資源の保全、教育、防災、地域振興等、様々な分野での取組があるが活動の検証とフィードバックが難しい	伊豆半島ジオパークの活動の進捗状況を把握し、フィードバックするためにどのような調査や指標が適当なのか、大学の知的・人的資源を活かしたモデル調査の実施、各種資料の収集と分析等
21	三保の松原フュー チャーセンター (静岡市)	①三保の松原の保全 ②三保の魅力を知り、次世代へ伝えていく仕組みづくり ③三保住民の安全な生活環境の確保 三保で活動している団体は数多く存在するが、横の連携が取れておらず、協働できるきっかけがほしい。	①耕作放棄地を活用し、三保自生の松から植樹用の松を育て、商品化するための支援 ②子供や住民が気軽に参加できるイベントを開催し、地域の関わりを強化するための支援

22	焼津市市民活動交流センター運営協議会	市内には市民団体が数多くあるが、団体相互の交流がなく、協働もできていない。焼津市の抱える様々な問題に行政、企業、市民が協働して解決策を模索するようになれば、もっと良いまちになると思われる。	市民活動の実態を知り、その活動を直接・間接に支援できる人材育成をお願いしたい。センターへの支援として、情報発信能力の強化、交流会の企画立案、市民が参加しやすい方法論の検討などがある。
23	静岡市葵生涯学習センター	①「生涯学習」の学習格差の解消 ②「生涯学習」に興味・関心がない地域住民に「生涯学習」に取り組んでもらえるような支援	①地域の現状調査の一連の事業の中で調査方法や課題解消への取組方法、評価方法へのアドバイスがほしい ②大学生等の若年層の認知を高める手法を開発、事業実施をする
24	伊豆を愛する会（南伊豆町）	ジオサイト候補地の里山を所有しているが、安全面への不安を理由に、町の観光協会と行政は活用に消極的である。地域の不安を取り除くために力を貸してほしい。	①岩石構造専門家の派遣をお願いしたい ②石切り場には昔の人が文字を掘った跡が何箇所もあり、解明されていないことも多く、歴史文化の専門家の派遣をお願いしたい
25	静岡県／松崎町	①棚田保全・活用一石部地区の棚田を保全するとともに活用を検討 ②特産品を活用して加工品づくりと販路拡大までを検討 ③伝統芸能保存 ④大学と地域のネットワーク化	①既存のつながりでは生み出されていない部分の開拓に期待 ②新しい視点で工夫を加えた加工品を開発してほしい ③継続的課題解決活動に取り組み、地元との連携を築いてほしい
26	静岡県／東伊豆町	①エコタウンとしての売り出しに向けたガイドシステムの研究 ②地域づくりインターンとしての学生の参加 ③オリーブの里づくりへの大学の参画	①エコ資源の活用方法の提案 ②従来より長期的な関わりが可能な大学生の派遣 ③オリーブの栽培の可能性について、植樹の段階からの研究を希望
27	静岡県／南伊豆町	①竹の子振興方策の検討一産地化に取り組んでいるが、竹林の利活用についての研究が必要 ②過疎地域における公共交通サービスの在り方の検討が課題	①従来と異なる新たな竹の子の活用策の提案に期待 ②集落が分散し、主要道路周辺のみを運行するのはカバーしきれない、公共交通網維持の問題の検討に期待

5 主催事業

①公開シンポジウム「地域課題と学習ネットワーク～地域と大学で何ができるか～」

地域社会と大学との連携・協働、学生の参画による地域づくりの実践事例を取り上げながら、地域連携の方向性と可能性を検討した。

- ・日時：2015年2月11日（水）13:15～16:15
- ・会場：松崎町生涯学習センター4階ふれあいホール
- ・プログラム：
 - ①「学生が参画する地域連携の取り組み」報告者：宇賀田栄次（静岡大学学生支援センター特任教授）、静大フューチャーセンター運営学生
 - ②「原発に依存しないまちづくり～御前崎市のフィールド調査から～」報告者：川瀬憲子（静岡大学人文社会科学部教授）、川瀬研究室・地方財政論ゼミ生
- ・コーディネーター：阿部耕也（静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授）
- ・参加費：無料
- ・参加者数：53人

②博物館フォーラム「伊豆半島における観光振興と住民参加による博物館活動」

2015年度に世界ジオパークネットワークへの加盟を目指す伊豆半島ジオパーク推進協議会は、観光客の受入体制や拠点施設の整備を進めている。今後は、伊豆半島の観光客の特性分析を踏まえてジオツーリズムを推進することや、広域に点在する施設をいかにネットワーク化し、住民参加で管理運営していくかが問われてくる。観光振興による地域活性化の研究者と、住民参加による博物館活動の研究者らとともに、伊豆半島における住民参画による広域の観光振興と、拠点施設のネットワークのあり方について検討した。また、翌日のワークショップでは参加者が実際に下田の市街地を歩き、文化・自然・地域遺産を結び付けたモデルコースの作成に取り組んだ。

【フォーラム】

- ・日時：2015年1月31日（土）14:00～16:00
- ・会場：伊東市観光会館第2会議室
- ・プログラム：
 - ①「熱海市観光動線実態調査にみる観光客の特性」報告者：狩野美知子（静岡大学人文社会科学部准教授）
 - ②「エコミュージアムからみた地域社会と博物館の連携」報告者：石川宏之（静岡大学イノベーション社会連携推進機構准教授）
- ・コーディネーター：鈴木雄介（伊豆半島ジオパーク推進協議会研究員）
- ・参加費：無料
- ・参加者数：40人

【ジオワークショップ】

- ・日時：2015年2月1日（日）10:00～14:00
- ・会場：道の駅「開国下田みなと」および下田市内
- ・プログラム：
 - ①ミニ講座「エコミュージアムからみた地域社会と博物館の連携」講師：石川宏之（静岡大学イノベーション社会連携推進機構准教授）
 - ②「下田まちあるき」案内人：石川宏之（静岡大学イノベーション社会連携推進機構准教授）、斎藤 武（伊豆半島ジオパーク認定ジオガイド）、鈴木雄介（伊豆半島ジオパーク推進協議会研究員）
- ・参加者数：20人
- ・参加費：無料

③公開セミナー「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができるようになることを目的に実施した。前期と後期の2回、それぞれ別の内容で実施した。

〔前期〕（通算18回）

- ・日時：2014年6月22日（日）9:15～12:15
- ・プログラム：
 - ①「アイスブレイク～学びのなかま～」講師：大畑智里（静岡県立静岡北特別支援学校教諭）
 - ②「最近の犯罪・防犯対策について」講師：小林哲也（静岡県警静岡南警察署生活安全課警部補）
 - ③「宇宙で働く機械たち～人工衛星と宇宙探査機～」講師：内山秀樹（静岡大学教育学部理科教育講座講師）
- ・参加者数：102人（うち学生19人、教職員その他30人）

〔後期〕（通算19回）

- ・日時：2014年10月19日（日）9:10～12:15
- ・プログラム：
 - ①「アイスブレイク～学びのなかま～」講師：大畑智里（静岡県立静岡北特別支援学校教諭）
 - ②「世界遺産富士山！」講師：大高康正（静岡県文化・観光部文化学術局富士山世界遺産センター整備課准教授）
 - ③「食生活と健康」講師：竹下温子（静岡大学教育学部家政教育教室准教授）
- ・参加者数：122人（うち学生41人、教職員その他24人）

〔共通事項〕

- ・会場：静岡大学大学会館3Fホール
- ・参加費：無料

- ・参加者：静岡県の知的障害養護学校等卒業の社会人（18歳以上）、県立特別支援学校等の教員、青年学級等の関係者・保護者、静岡大学教育学部特別支援教育（障害児教育）専攻の学生、静岡県障害者就労研究会会員など
 - ・企画：静岡県障害者就労研究会
- 【生涯学習講演会】
- ・日時：2014年10月19日（日）13:30～15:30
 - ・会場：静岡大学学生会館3Fホール
 - ・講師：森脇 勤（京都市教育委員会指導部総合育成支援課専門主事、京都女子大学非常勤講師）
 - ・演題：「卒業後の生活デザイナー－知的障がい者の主体的な社会参加を願って－」
 - ・参加者数：80人
 - ・参加費：無料
 - ・参加者：一般市民、主に小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭等の関係者
 - ・企画：静岡県障害者就労研究会

④地域連携応援プロジェクト成果報告会

静岡大学の地域連携活動を推奨・支援するために、2013年5月に静岡大学「地域連携応援プロジェクト」を募集・採択し、これらプロジェクトの成果報告会を開催した。

- ・日時：2014年5月9日（金）13:00～14:45
- ・会場：[静岡会場] 静岡大学事務局別館1A会議室
[浜松会場] 静岡大学イノベーション社会連携推進機構棟1階カンファレンスルーム
※遠隔テレビシステムで2会場を結んで実施
- ・プログラム：
 - ①「学生ボランティアによる「多文化共生のためのつながりづくり」プロジェクト」プロジェクト代表者：矢崎満夫（静岡大学教職大学院准教授）
 - ②「静岡STEMジュニアプロジェクト「サマーSTEMキャンプ」」プロジェクト代表者：熊野善介（静岡大学教育学部教授）
 - ③「体験型複合的理数教育プログラム「三本の矢」による理系人材の発掘と育成事業」プロジェクト代表者：瓜谷真裕（静岡大学理学研究科教授）
- ・参加者数：27人
- ・参加費：無料

6 共催事業

○生涯学習指導者研修事業「連携をもとに地域課題に取り組む公民館」

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施した。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また地域づくりの拠点として、これまで以上に地域の住民・機関・団体との連携・協働が求められている。地域のもつ人材、文化、ネットワークなどを活かしながら、地域全体の総合的な取り組みが必要な課題と向き合い、住民・諸機関・団体相互の連携・学び合いの中で、課題解決を図る様々な事例に学び、これからの公民館の姿について考えた。

- ・日時：2014年12月9日（火）10:20～16:00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館

- ・プログラム：

- ①基調講演「アートを活かしたまちづくり」講師：片桐隆嗣（東北芸術工科大学教授）

- ②事例報告

- ・「住みよいふる里「東浅羽」の再生」報告者：原 幹夫（袋井市浅羽東公民館長）

- ・「大学－地域連携の実践事例 地域課題解決支援プロジェクトの目指すもの」報告者：阿部耕也（静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授）

- ③グループワークとディスカッション

- ・コメンテーター：菅野文彦（静岡大学教育学部教授）

- ・参加者数：61人

- ・参加費：無料

- ・主催：静岡県公民館連絡協議会、静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）

7 企画協力事業

①静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座「学びが支える健康な暮らし～長寿社会を豊かに生きる～」

- ・日時：2014年9月13日（土）～10月11日（土）[全5回] 10:00～11:30

- ・会場：アイセル21

- ・プログラム：

- ①9/13（土）「希望ある人生について考えてみましょう」講師：見平 隆（静岡英和学院大学教授）

- ②9/20（土）「非栄養素の栄養学」講師：森田達也（静岡大学農学研究科教授）

- ③9/27（土）「睡眠から考える健康」講師：青田安史（常葉大学准教授）

- ④10/4（土）「食品安全をめぐる諸問題とその対策」講師：山本茂貴（東海大学教授）

- ⑤10/11（土）「健康寿命は口腔機能の活性化から」講師：鈴木温子（静岡県立大学准教授）

- ・参加費：無料

- ・主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉大学、静岡市

- ・企画協力：静岡大学イノベーション社会連携推進機構

②焼津市大村公民館一般公開講座「太陽光発電講座」

- ・日時：2015年3月19日（木）10:00～11:00

- ・会場：焼津市大村公民館

- ・講師：松尾廣伸（静岡大学大学院工学研究科助教）

- ・参加費：無料

- ・主催：焼津市大村公民館

- ・企画協力：静岡大学イノベーション社会連携推進機構

7 市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放し、正規学生と一緒に受講できるようにしたもので、2005年度から実施している。受講者数、開講科目数等のデータは次頁の表のとおりである。

①受講者数

年度	受講者数	平均年齢
2005年度	106	58.2
2006年度	154	59.9
2007年度	137	62.0
2008年度	166	61.7
2009年度	203	60.8
2010年度	217	62.3
2011年度	274	63.2
2012年度	339	63.5
2013年度	333	64.0
2014年度	309	65.0

②開放科目数

年度	共通	人文	教育	理	農	工	情報	法科	計
2005年度	116	89	14	12	7	6	10		254
2006年度	127	87	21	118	13	7	10		383
2007年度	128	114	21	77	7	9	10		366
2008年度	143	85	17	93	88	7	0	1	434
2009年度	96	106	21	103	85	4	12		427
2010年度	144	114	19	112	83	10	11		493
2011年度	151	98	18	109	82	9	12		479
2012年度	159	111	17	114	81	8	9		499
2013年度	154	92	17	106	79	8	8		464
2014年度	87	93	16	115	77	7	12		407

③受講科目数

	共通	人文	教育	理	農	工	情報	法科	計
2005年度	56	33	5	0	2	0	0		96
2006年度	63	47	7	9	2	1	3		132
2007年度	48	46	5	11	5	0	1		116
2008年度	50	58	5	13	14	0	0	1	141
2009年度	50	61	3	26	23	2	4		169
2010年度	57	63	4	33	21	4	7		189
2011年度	62	64	3	24	26	3	2		184
2012年度	88	63	5	29	22	0	5		212
2013年度	74	67	9	29	28	0	3		210
2014年度	56	70	3	35	27	0	5		196

④受講者状況

□居住地地別受講者数

居住地	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
神奈川県足柄郡	0	0	0	2	2	2	1	0	0	0
伊豆の国市	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0
伊東市	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0
下田市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
熱海市	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2
裾野市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
沼津市	2	2	3	3	1	1	3	5	1	3
富士市	0	1	0	0	2	7	12	12	8	8
富士宮市	1	3	2	2	2	3	0	0	1	0
三島市	2	2	0	2	3	2	2	0	0	0
駿東郡	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
御殿場市	1	2	1	0	0	1	0	1	0	0
志太郡	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0
菊川市	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1
掛川市	1	1	2	1	2	0	1	3	4	5
静岡市	75	99	101	130	141	129	161	206	208	204
藤枝市	4	11	12	12	12	14	24	16	21	17
焼津市	4	3	0	0	8	13	12	14	17	9
磐田市	0	4	0	3	0	2	1	5	5	5
御前崎市	0	0	0	0	5	4	4	2	2	0
引佐郡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湖西市	0	3	2	2	2	2	2	3	3	2
島田市	4	4	2	2	0	0	5	7	7	9

居住地	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
榛原郡	2	2	0	0	0	3	5	1	0	1
浜松市	4	13	9	4	20	27	32	51	48	34
袋井市	0	0	0	0	1	1	4	6	4	3
牧之原市	0	1	1	0	0	2	2	0	1	3
周智郡	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
豊橋市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知県春日井市	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	106	154	137	166	203	217	274	339	333	309

☐ 年齢別受講者数

年齢	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
～19	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
20～24	1	4	1	3	1	1	2	0	1	0
25～29	4	5	2	1	6	0	1	0	1	5
30～34	4	4	1	2	7	5	4	3	0	3
35～39	2	0	5	6	3	6	1	7	4	3
40～44	7	6	5	2	8	9	2	5	6	6
45～49	6	11	7	7	9	12	18	14	9	6
50～54	8	6	6	13	10	10	13	19	18	8
55～59	13	23	10	12	17	17	21	18	13	13
60～64	33	39	30	40	54	57	79	119	113	72
65～69	16	33	37	42	42	45	61	79	94	110
70～74	9	15	20	24	28	33	46	45	44	54
75～79	2	6	11	9	13	14	18	20	20	17
80～84	1	2	2	2	4	5	4	7	9	10
85～89	0	0	0	0	1	3	3	3	1	2
計	106	154	137	163※	203	217	274	339	333	309

※3名年齢未記入

☐ 一人当たりの受講科目数

受講科目数	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1科目	51	92	77	89	123	129	168	224	216	191
2科目	34	34	44	45	47	42	69	79	79	77
3科目	10	21	12	22	18	28	23	22	24	24
4科目	6	4	2	3	9	14	11	13	11	10
5科目	3	2	0	4	3	1	3	1	1	4
6科目	2	0	2	1	1	1	0	0	2	2
7科目	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1
8科目	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0
計	106	154	137	166	203	217	274	339	333	309